

事業報告

I. 全体概要

令和2年度の種苗の供給数については、かんしょ、いちご、ラナンキュラス、デルフィニウムは前年度実績より増加し、にがうり、ピーマン台木は前年度実績と同程度で、らっきょう、かぼちゃ、スイートピーは前年度実績より減少した。

種苗販売の収益となる事業収益額は59,563千円となり、前年度実績より2,723千円の減収となり、前年度実績比96%（当初予算比115%）となった。

また、種苗生産・販売のコストとなる事業費額は79,311千円で、前年度より4,877千円の減少となり、前年度実績比94%（当初予算比116%）となった。増減の内訳としては、かんしょ苗の増産等の影響で、賃金（作業員等）及び原材料（肥料・農薬）等は前年度より増加したが、資材費（ビニール等）、修繕費及び施設整備引当金等は減少した。

その結果、事業収益、受取会費、受取委託料・補助金等を合計した経常収益額は89,230千円、事業費、管理費を合計した経常費用額は88,046千円となり、当期経常増減額は1,184千円の黒字となった。

II. 業務別事業実績

1. 管理運営に関する事業

1) 総会

第58回定時総会及び2回の臨時総会を開催し、上程した議案は全て原案どおり承認された。なお、第1回臨時総会は決議の省略の同意が得られ、書面議決となった。

[総会の開催]

総会	開催日	場所	議案事項
第58回定時総会	令和2年 6月24日	JAビル 503研修室	1.令和元年度事業報告、貸借対照表等について 監査報告 2.任期満了に伴う役員改選(案)について(別表-1)
第1回臨時総会	令和2年 7月29日	—	1.役員 の 辞任に伴う後任者の選任(案)について(別表-2)
第2回臨時総会	令和3年 3月23日	JAビル 503研修室	1.令和3年度会費及び納入方法(案)について

2) 理事会

5回の理事会を開催し、総会附議事項等について審議した。なお、第3回及び第4回理事会は決議の省略の同意が得られ、書面議決となった。理事会に附議した議案はすべて原案どおり承認された。

[理事会の開催]

理事会	開催日	場所	議案事項
第1回理事会	令和2年 6月3日	JAビル 501研修室	1.令和元年度事業報告、貸借対照表等について 監査報告 2.任期満了に伴う役員改選(案)について 3.第58回定時総会の開催(案)について

第2回 理事会	令和2年 6月24日	JAビル 503研修室	1.役付理事の選定(案)について(別表-3)
第3回 理事会	令和2年 7月10日	—	1.役員 の 辞任 に 伴 う 後 任 者 の 選 任 (案) に つ い て
第4回 理事会	令和2年 8月6日	—	1.役付理事の選定(案)について(別表-4)
第5回 理事会	令和3年 2月26日	JAビル 503研修室	1.令和2年度収支予算の補正(案)について 2.令和3年度事業計画及び収支予算(案)について 3.令和3年度の会費及び納入方法(案)について 4.令和3年度借入限度額(案)について 5.令和2年度第2回臨時総会の開催(案)について

3) 企画運営委員会

2回の企画運営委員会を理事会に先立ち開催し、理事会附議事項及び報告事項等について協議した。

[運営委員会の開催]

理事会	開催日	場所	協議事項
第1回 運営委員会	令和2年 5月20日	県総合農試 研修棟	1.令和元年度事業報告、貸借対照表等について
第2回 運営委員会	令和3年 2月10日	県総合農試 大研修室	1.令和2年度収支予算の補正(案)について 2.令和3年度事業計画及び収支予算(案)について 3.令和3年度の会費及び納入方法(案)について 4.令和3年度借入限度額(案)について

4) 監査

定例の棚卸監査及び帳簿監査が行われた。

監査名	開催日	備考
棚卸監査	令和3年4月1日	令和2年度期末棚卸監査
帳簿監査	令和3年4月19日	令和2年度期末帳簿監査

2. 種苗生産・供給事業

1) 園芸作物の優良種苗の生産及び安定供給

(1) 宮崎県が育成したオリジナル品種の種苗供給

宮崎県総合農業試験場で育成された野菜・花きの品種等について、宮崎県から許諾を受け、種子の生産及び供給を行った。

① かぼちゃ

黒皮かぼちゃの「宮崎早生1号」等の3品種について、92袋を供給し、供給金額は435千円であった。(前年度実績比 供給数：84%、供給金額：85%)

② にがうり

「佐土原3号」、「みやざきつやみどり」等の4品種について、1,148袋を供給し、供給金額は5,051千円であった。(前年度実績比 供給数：93%、供給金額：93%)

③ ピーマン台木

「みやざき台木3号」、「みやざき台木5号」等の3品種について、626袋を供給し、供給金額は4,182千円であった。(前年度実績比 供給数：102%、供給金額：103%)

④ スイートピー

複色系品種の「紅式部」、巻ひげの無い品種の「ムジカローズ」等の10品種について、22袋を供給し、供給金額は155千円であった。

(前年度実績比 供給数：79%、供給金額：80%)

⑤ デルフィニウム

白系の「ペガサス」、青系の「ブルーオリオン」等の6品種について、96袋を供給し、供給金額は1,399千円であった。(前年度実績比 供給数：112%、供給金額：117%)

(2) 栄養繁殖作物の茎頂培養苗の供給

かんしょ、いちご、らっきょう、ラナンキュラスの茎頂培養苗を生産・供給した。

① かんしょ

「宮崎紅」、「コガネセンガン」、「ベにはるか」等の8品種の挿苗及びポット苗を供給した。その供給数は142万本(前年度実績比107%)と増加したが、供給金額は35,916千円であった。(前年度実績比96%、当初予算比121%)

苗の種別では、挿苗は供給本数、供給金額とも前年度より大幅に増加した。(前年度実績比 供給本数：116%、供給金額：121%)

一方、ポット苗は前年度の1芽挿しの緊急育苗がなく、供給鉢数、供給金額とも前年度より減少した。(前年度実績比 供給本数：25%、供給金額：25%)

主要品種別では、「宮崎紅」の供給数は前年度より大幅に増加したが、供給金額はポット苗の緊急増殖がなく、減少した。(前年度実績比 供給本数：161%、供給金額：91%)

「コガネセンガン」の供給数、供給金額は前年度と同程度であった。(前年度実績比 供給本数：96%、供給金額：102%)

また、「ベにはるか」の供給本数、供給金額は前年度よりやや増加した。(前年度実績比 供給本数：102%、供給金額：104%)

② いちご

「さがほのか」(親株を佐賀県から導入)等の苗について、10,500鉢を供給し、供給金額は3,577千円であった。(前年度実績比 供給金額：105%、供給金額：106%)

③ らっきょう

「らくだ」の種球について、2,045kgを供給し、供給金額は1,237千円であった。

(前年度実績比 供給数：83%、供給金額：84%)

④ ラナンキュラス

「ラズベリル」、「サンキュラス・ホワイト」等の17品種の培養苗及びかぎ芽苗について、5,220本を供給し、供給実績額は1,054千円であった。

(前年度実績比 供給数：120%、供給金額：120%)

(3) 優良種苗供給体制整備事業

優良種苗の安定生産技術の確立に向けた試験・実証等について、7品目で実施した。

① かんしょ苗の安定生産技術の確立

新系統選抜試験では、「宮崎紅」の新系統(3系統)の収量性及び品質等を畑作園芸支場で調査し、1系統を有望系統として選定した。この系統を茎頂培養し、次年度、継続試験を行う。また、採苗量及び採苗効率の向上を目的に、密植栽培と慣行栽培での採苗数及び苗質を比較・検討したが、密植栽培と慣行栽培との差は認められなく、次年度再試験を行う。

② ピーマン台木の採種技術の確立

「みやざき台木5号」の採種技術の確立として、仕立て法及びポット栽培による根域制限栽培の実用性について、雨よけ栽培（4月定植）で検討した。

仕立て法では、主枝4本仕立て及び主枝6本仕立て（側枝は全て2節摘芯）で採種量等を検討した結果、主枝4本仕立ての採種量が多く、作業効率も高かった。

また、24cm及び27cmのポット、プランターを用いた根域制限栽培は地床栽培より着果が良く、採種量が多く、実用性があるものと思われ、今後、追肥時期及び量等について検討する。

③ らっきょうの優良系統の選抜

県内産地で選抜された5系統及びバイテクセンター保有の2系統について、収量及び形質等を継続調査しており、5系統においては、畑作在来及び中国種の収量が高かった。また、バイテクセンター保有の2系統では、「H2丸1A」の生育が旺盛で、収量が高かった。

④ カラーピーマンの採種技術の確立

カラーピーマン2品種の採種に適した作型及び栽培方法を把握するため、秋どり採種での着果状況及び収量等を検討した結果、9月定植、11～12月収穫の作型で、根域制限栽培でも十分な採種が可能であることがわかった。

⑤ ラナンキュラスの優良種苗の安定生産技術の確立

苗の活着率の向上対策として、球根からかぎ取った芽の洗浄の有無による苗腐敗等について検討したが、品種間差等が見られたことから、次年度再検討する。

また、現在切り花生産で利用されていない小球根を養成して、次年度の生産用球根としての利用の可能性について検討している。

⑥ りんどうのメリクロン苗の安定生産技術の確立

発根に適した培地としては、MS培地にNAA0.02ppm添加することで発根が助長されるとともに、培養苗の順化における鉢上げ用培土については、生育状況及びコスト面から、ボラ土+MKK園芸5号が有望と思われた。

また、苗生産では、培養苗を直接鉢上げし、育苗したものを主体としているが、苗生産培養苗を親株として、採穂し、挿し芽による苗の生産の可能性について検討している。

⑦ ブルーフレグランスの採種技術の確立

発芽率の向上対策として、吸水処理方法を検討した結果、種皮を缺等で傷つける方法が有効であるが、労力面での課題が見られた。また、育苗でのセルトレイの規格では、288穴セルトレイが有効であることがわかった。

さらに、整枝・誘引方法や絵筆を利用した受粉方法等について検討している。

(4) 優良系統・品種の親株保存管理

県育成品種で、現在普及中の品種・系統及び遺伝資源としての利用の可能性のある品種・系統を将来の活用に備え、保存・管理しており、野菜2品目4品種、いも類1品目11品種、花き3品目22品種の優良親株の保存管理を行った。

[優良親株の保存管理]

作目	品目	品種	導入先	導入年	保存形態
野菜類	いちご	とよのか	宮崎市	平成5年	フラスコ苗
		みやざきなつはるか	県総合農試	平成25年	
		こいはるか		平成29年	
	らっきょう	らくだ	都城市	平成2年	
		らくだ		平成5年	

いも類	かんしょ	宮崎紅 (A-3)	県総合農試	平成 18 年	ナスコ苗			
		宮崎紅 (O-61)		平成 24 年				
		宮崎紅 (T-15)		平成 29 年				
		ことぶき	宮崎市	平成 8 年				
		コカネサン	県総合農試	平成 24 年				
		アヤマラサキ						
		べにはるか						
		ジョイホワイト						
		ムラサキマサリ				平成 25 年		
		コカネマサリ				平成 26 年		
		タマアカネ				平成 27 年		
		平成 18 年						
花き類	デルフィニウム	LP93 (レグルス親)	綾町	平成 27 年	鉢苗 (親株)			
		AS (ハカ親)						
	ラナンキュラス	ガーネット				綾町	平成 27 年	
		ラスベリル						
		ローズクォーツ						
		サンキュラス・オレンジ						平成 20 年
		サンキュラス・ホワイト						平成 21 年
		マリティーム						平成 22 年
		フェラン						
		ちほの詩						
		ジュノソー						平成 28 年
		エトルタ						
		オンフルール						
		オレンジ・シャロット						
		キティラ						平成 29 年
		デューニユ						
		ホームロール						
		サンキュラス・シュガー						県総合農試
		サンキュラス・パールピンク						
		スプレーカーネーション						ローロ
ローロレット	県総合農試							
ローロピンク								

2) 野菜苗の受託育苗

ハウス施設の有効利用等を図るため、7月～10月を主体に、野菜苗（ピーマン、なす、きゅうり）の育苗をジェイエイ・アグリシード(株)から受託して行い、受託収入額は5,191千円であった。（前年度実績比：72%、当初予算比：156%）

[野菜苗の受託数量]

品目	数量 (本)
ピーマン苗	52,654
きゅうり苗	29,947
なす苗	15,350
合計	97,951

注1) なすは佐土原なすを含む

(別表－1)

任期満了に伴う後任の役員

1. 理事

辞任		新任	
氏名	役職名	氏名	役職名
坊藪 正恒	前宮崎県農政水産部長	大久津 浩	宮崎県農政水産部長
甲斐 典男	前宮崎県総合農業試験場長	日高 義幸	宮崎県総合農業試験場長

任期：令和2年6月定時総会から令和4年6月定時総会まで

(別表－2)

役員の新任に伴う後任の役員

1. 理事

辞任		新任	
氏名	役職名	氏名	役職名
新森 雄吾	前会長理事	坂下 栄次	会長理事

任期：令和2年7月第1回臨時総会から令和4年6月定時総会まで

(別表－3)

役付理事の新任に伴う後任の理事

1. 理事

辞任		新任	
氏名	役職名	氏名	役職名
坊藪 正恒	前副会長理事	大久津 浩	副会長理事

任期：令和2年6月定時総会から令和4年6月定時総会まで

(別表－4)

役付理事の新任に伴う後任の理事

1. 理事

辞任		新任	
氏名	役職名	氏名	役職名
新森 雄吾	前会長理事	坂下 栄次	会長理事
坊藪 正恒	前副会長理事	大久津 浩	副会長理事
甲斐 典男	前宮崎県総合農業試験場長	日高 義幸	宮崎県総合農業試験場長

任期：令和2年6月定時総会から令和4年6月定時総会まで